

輸入粗飼料の情勢

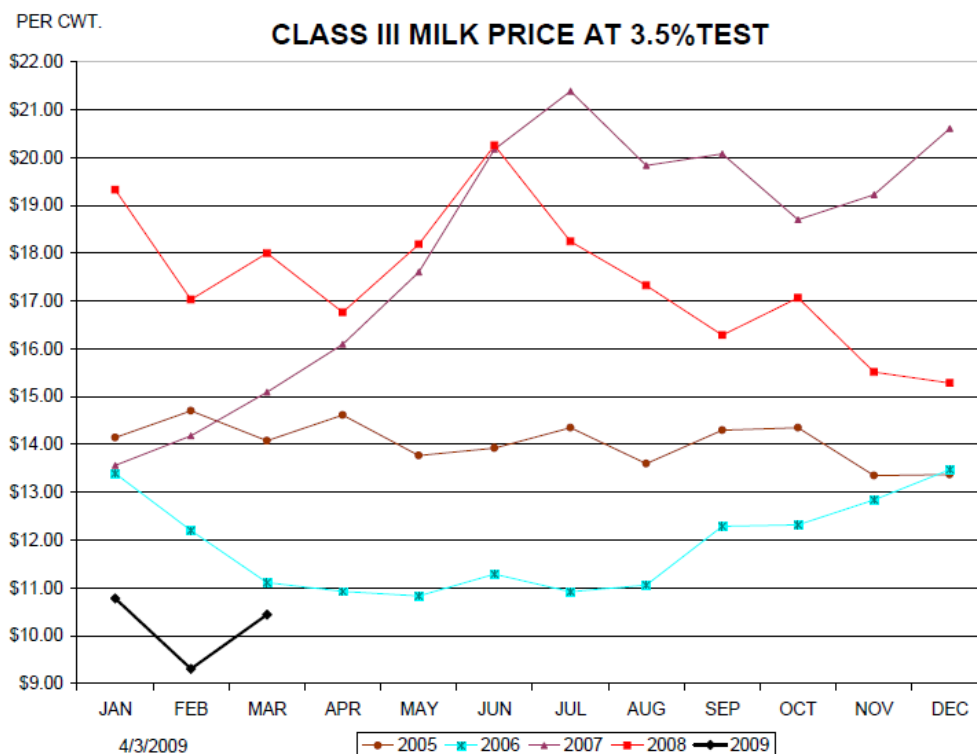
全酪連購買部
購買推進課

新型インフルエンザに関する米国内の状況について

新型インフルエンザについては米国内でも死亡者が確認され、ニュースで報道されていることから関心が高くなりつつあります。米国政府筋もメキシコへの旅行は自粛するように呼びかけておりますが、乾牧草主産地インペリアルバレーのエルセントロの各サプライヤーに問い合わせたところ、現時点メキシコ国境では人の往来や物資の輸送については制限されておらず、メキシコ側から働きに来ている契約労働者たちは日々通常通り国境を超えているとのことで、これによるプレス作業やコンテナ船積みの遅れも発生しておらず、全てが通常通りで何も変化はないとのことです（5/11時点）。今後万が一、船積み等に問題が発生する恐れのある情報が入手された場合は、購買部より本会各支所に即連絡する予定でおります。

米国の乳価動向

米国では引続き乳価が低調に推移しています。このまま推移すれば09年産牧草も国内からの引合いが弱く、輸出向け市場には有利な状況になると考えられます。



ビートパルプ

<米国産>

09年産の作付けが始まりました。ミシガン地区では作付け開始時並びにその後の進捗も順調で、7割方作付けが行われた見込みです。日本向けの主産地、ミネソタ・ノースダコタ地区も既に作付け時期に入っていますが、雨模様の天候が続いた影響で圃場が悪く作業に入れず、未だに本格的なスタートには至っておりません。天候も回復基調と言われている近日中には本格的なスタートとなる模様です。また、ミネソタ・ノースダコタ地区では5/10ごろ迄に作付けが完了すれば作柄に大きな影響はない見込みです。

<中国産>

韓国の輸入通関統計によると、3月の中国産ビートパルプ輸入数量は11,914トンでした。韓国の平均月間需要と言われる10,000トンは引続き維持しています。中国産ビートパルプは国内向け需要がかなり旺盛であり、韓国の輸入もスローダウンする向きもありましたが、これまでのところ予想以上に荷動きがある印象です。

日本の3月の輸入数量はまだ発表されていませんが、1、2月で合計13,250トンと韓国に比べるとかなりスローペースの輸入となっております。3月もそれほど輸入された形跡はなく、中国産ビートパルプ自体の流通は相当限られたものになっている印象です。上述のとおり、中国国内向け需要が非常に堅調であり、かつ韓国輸入も予想以上となって価格をかなり下支えしている模様であり、今後とも日本向け輸入数量が限定的なものである可能性が高いと思われます。

アルファルファヘイ

<ワシントン産>

各サプライヤーとも日本の連休前需要で多少荷動きは良くなりましたが、一時的なもので、全体的には思わしくないままです。

09年産の作付面積は、昨年小麦に転作された圃場が一部アルファルファに戻る見込みで、15%程度の増加が予想されています。但し昨年と同様に通常よりも冷涼な気候が続いており、1番刈の刈り取りが3週間ほど遅れる見込みなので、一部圃場では4番刈まで期待出来ないこともあり、収量の面では今のところ減少の見込みです。08年産は高騰した価格ですが、09年産は例年並の価格帯との見通しもあります。今後の収穫時の天候がカギを握りそうです。

<カリフォルニア産>

インペリアルバレーでは現在3番刈が開始されていますが、気温の上昇から、ブリーチの入った乾燥気味の品質となっているようです。09年産は開始されていま

すが、08年産の在庫が日本国内に多いことから、日本からの引合いは少ないようです。4/15時点のイーカレッジレポートによると130,793エーカーとなっており、前年対比で15%増加となっています。



インペリアルバレー アルファルファ3番刈圃場

チモシー

＜米国産＞

引続き各サプライヤーとも荷動きは順調で、特に酪農向けプレミアム品の出荷が順調なようです。対して2番刈は荷動きが少し悪く、現地在庫は多いようです。

09年産の作付面積は、コロンビアベースンで20-25%程度の減少、エレンズバーグで若干の減少となると予想されており、総じて生産量は減少すると予測されます。両産地とも、今のところ順調に生育が進んでいるようです。

＜カナダ産＞

引続き各サプライヤーとも荷動きは順調で、特に米国産と同様にプレミアム品の出荷が順調なようです。

4月上旬は天候に恵まれて順調に生育していましたが、下旬に積雪があり、例年より寒い気候となったようです。降雪はドライランドにとっては土壤水分を補う結果にはなるものの、生育速度はスローダウンした模様です。またレスブリッジでは、作付面積はあまり増えていないようです。

スーダン

スーダンの荷動きは変わらず低調で、サプライヤーによりますが産地在庫は十分にあるようです。

インペリアルバレーの早まきのスーダンは播種が始まっています。4/15時点のイーカレッジレポートによると前年とほぼ同じ16,340エーカーとなっています。今後も豪州産オーツハイとの競合で更なる現地価格の下落も予想されます。多くの生産農家は小麦刈取り後に生産する遅まき（通称 アフターウィート）のスー

ダンの生産にはかなり慎重な様子で、今後の状況次第ではスーダンの作付けが昨年
に比べて相当量減少する見込みです。

一方、小麦の作付面積は、4/15時点のエーカーレッジレポートによると107,
277エーカー（前年同月は111,050エーカー）となっており、前年対比9
7%でほぼ同水準で推移しています。



生育中の早まきのスーダン

スーダン圃場

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

4月に入りほとんどの生産農家が水入れを開始し、現在一部圃場では、クリッピング（圃場の雑草類除去のための刈り取り）が始まっています。一方、日本向け需要の冷え込みから、最初の水入れを意図的に遅らせている生産農家も散見されており、そのため09年産の本格的な船積みは少し遅れる見込みです。4/15時点のエーカーレッジレポートによると14,054エーカーとなっており、前年対比で5%の減少となっていますが、古い圃場は2-3番刈りで切り上げ秋作物へ転作するところも多く、生産量自体は先細りになる見込みで、最終的には10-15%の作付減になると予想されています。また09年産の市場価格次第では、生産農家は1-2番刈で生産を終了する可能性もあり、さらなる生産減の懸念が出ています。

バミューダ

荷動きは低調で、現地在庫は余裕があるようです。4/15時点のエーカーレッジレポートによると50,934エーカーとなっており、前年対比で8%の減少となっています。

09年産のバミューダの生産量については、種子相場が良くないことと、輸出向けハイ・ストローの荷動きが低調なことから、20%程度の減少が見込まれています。

ストロー類

荷動きは今のところ順調ですが、引続き韓国のストロー類輸入数量が日本を上回っています。産地在庫はライグラスが少なく、フェスキューはかなり余裕があるようです。

09年産のストロー類の作付け動向については、今のところライグラスは20%、フェスキューは15%減少すると予想されています。米国内の景気低迷および住宅事情の悪化で、ゴルフ場・家庭・リゾート向けの芝の需要が大きく落ち込みました。これが種子相場の下落を招いた為、生産農家にとっては種子を取るための作付け意欲は高まっていません。

オレゴン州ストロー輸出実績 (MT)	2008年3月	2009年3月	増減
ライグラス	25,761	19,103	74%
アニュアルライグラス	5,541	4,942	89%
フェスキュー	33,502	28,726	85%
オーチャード	1,629	888	54%
ベントグラス	617	500	81%
合計	67,050	54,159	80%

オレゴン州ストロー輸出実績(MT) 国別	2009年2月	2009年3月	増減
日本	20,123	26,132	129%
韓国	22,514	27,356	121%
台湾	503	500	99%
合計	43,140	54,160	125%

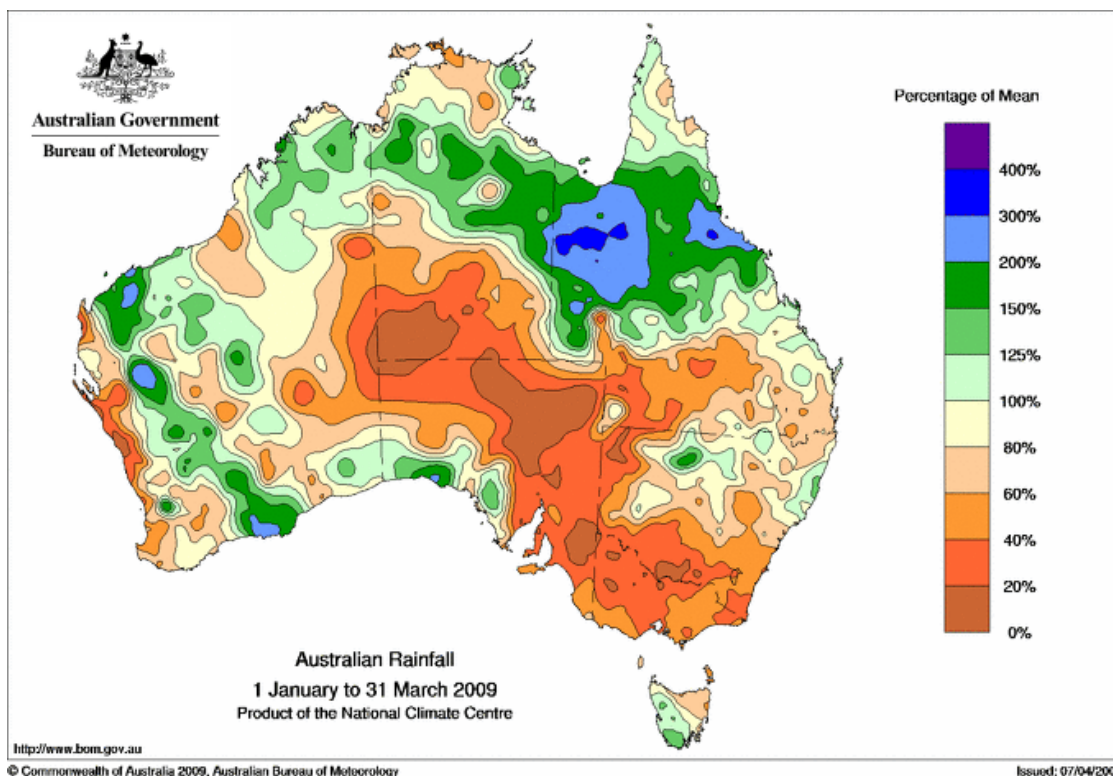
*ライグラス/アニュアルライグラス/フェスキュー/オーチャード/ベントグラス合計

豪州産オーツヘイ

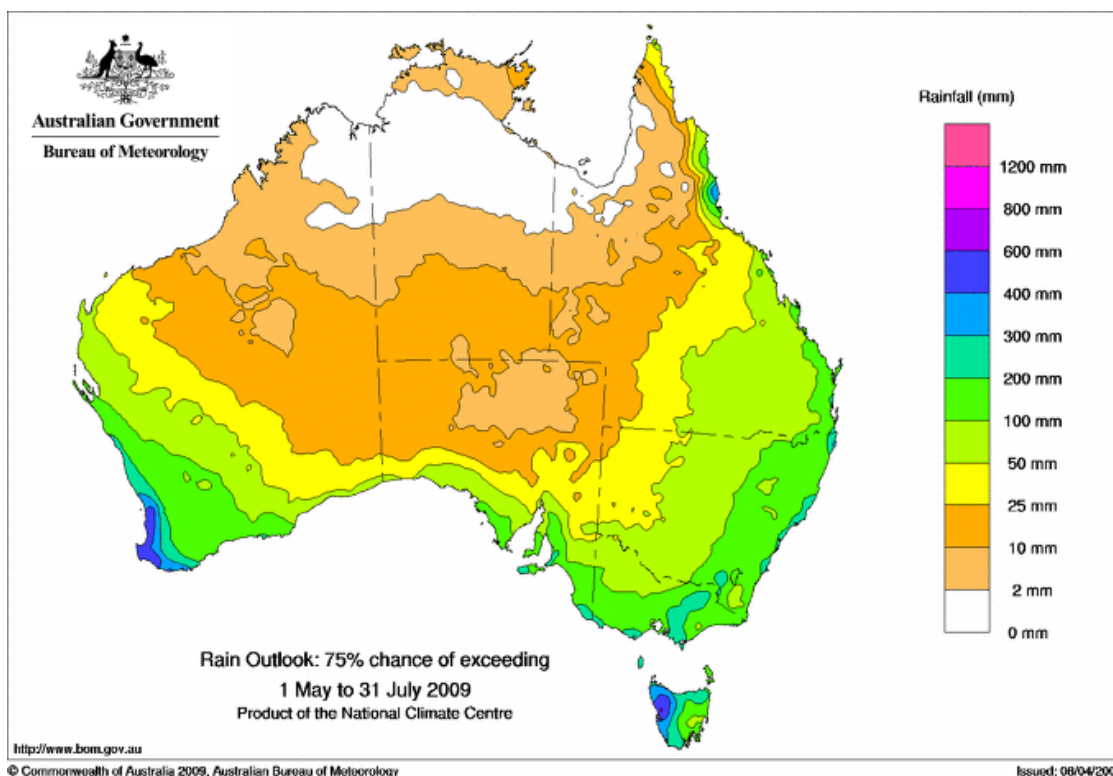
西豪州、南豪州ともに4月末からいよいよ播種が始まりました。ここ数ヶ月の降水量について西豪州は例年前後の降雨があり、適度な土壌水分はあるようですが、播種の本格化にはさらなる降雨が望まれる状況です。南豪州では年明けからの降水量は常に少ない状況でしたが、4/25-27に多くの生産地域で50mmの降雨があり、播種には良いタイミングの雨となりました。但し、今後最も降雨が必要な5-7月の長期予報では(下図参照)、早魃とまでは言えませんが、ここ数年の気候は過去のデータからは予測できない動きとなっており、注目されるところです。

西豪州の作付面積予想は、昨年の降雨被害の影響もあり生産農家は輸出向け良品生産量が減少したため、オーツの作付けには後ろ向きで、09年産は20%程度の減少と予想されています。特に南部の穀倉地帯の生産農家が、過去数年のヘイ生産

の収益減により他作物への移行の動きを見せています。一方、南豪州は小麦、大麦の価格が落ち着いてきたことと、昨年の作柄が安定していたことからオーツの作付けは比較的好転が予想され、10%程度の増加と見込まれています。



豪州 1-3月の降雨量 例年比(%) 豪州気象局



豪州 5/1から7月末までの降雨予想 豪州気象局

以上